



▼郷土芸能大矢野太鼓が、参加したお母さん方の心をなごませた。



▼代表に選ばれたお母さん方は先生の指導で さっそく練習開始。



熊本市内から約一時間半、大矢野町では、町職員、農協職員、生産農家が温かく出迎え、昼食時には郷土芸能も披露されるなど、町は、歓迎一色に塗りつぶされていました。ツアーの一行は、生産現場で花を手にとってみたり、においをかいだり、生産の苦労話を聞いたりして、花との対話を楽しんでいました。店頭とは一味違った「花」を満喫されたようです。

また、この日は、車エビの養殖場も訪問、午後のフラワーデザイン講習会では、新しい花の活用方法などを研修し、盛りだくさんの一日となりました。今、県内には、日本一の生産を誇るかすみ草をはじめ、菊、カーネーションなど、三百品目が栽培され、北は北海道から南は沖縄まで飛行機で運ばれ、生産額では全国第八位を占めています。バイオ技術も導入され、くまもと農業」の中でも期待される部門のひとつとなっています。

▲クルマエビの稚えびの入った水槽の前で説明に耳を傾ける。



大矢野に、感嘆の花咲いた！ きれいな香り！花の町

今回のツアーは大矢野町が主催、五百人を越す応募者の中から抽選で二百五十名が参加。そのほとんどは主婦の方でしたが、中には夫婦で参加された方もみられました。大矢野町は、年間平均気温が十七度を越す温暖な地域、霜を知らない町全域には、アイリス、バラ、矢車草、エンゼルなど六十品目が栽培されています。

▼さあ、大矢野町の会場に着きました。



二月二十六日、今年度第四回目の「花を訪ねるバスツアー」が行われました。このツアーは、一般の方々にも実際に花の生産現場をみてもらい、生活に花をとり入れていただこうと、昭和五十九年から行われているものです。これまで、三角町、鹿本町、南小国町などを訪ねましたが、人気はうなぎのぼり、参加者も回を追うごとに増えています。



▲講師の先生方によるデモンストレーション。



▲壇上で演じられるフラワーデザインに注がれる熱いまなざし。

